

主催者からのごあいさつ

富山大学地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門長

おく ひろかず
奥 敬一

本公開フォーラムのテーマは「文化的景観」です。少し背景をさかのぼりますと、「景観法」という法律ができたのが2004年、そしてそれにあわせて「文化的景観」を保全できるように文化財保護法が改正、施行されたのが2005年ということです。フォーラムが開催された2015年という年は、実は世の中に「文化的景観」という制度ができてから10年目という節目の年にあたっていました。つまり、景観が「文化財」として認められるようになってから10年が経ったということになるわけです。

この間、各地で地域の優れた景観を保全し、あるいは作り出すための様々な取り組みが進展しました。地域づくりのなかで景観を考慮に入れることはもはや前提条件になりつつあると言ってよいかもしれません。一方で相対的な地方の疲弊や人口減少の中で、長らく続いてきた景観が魅力を喪失してしまいかねない状況も各地で生まれています。景観には、観光資源として、あるいは移住先を探す際のポイントとして、間違いなく人を動かす力があるわけですが、こうした力をこれからの地域づくり、あるいは地方創成の動きにどのように活かすのかが問われていると言えるでしょう。

しかし、地域の人々が関わりあいながら育まれてきた文化的景観は、普通の文化財や保護区のように、手をつけずに、あるいは形を変えずに守るという仕組みとは、少し考え方の違う部分があります。このフォーラムは、文化的景観とはこういうものなのか、こういう風に考えるのか、これなら私たちの地域でも使えるかもしれない、と思っただけのような議論を提供したいと考えて企画をしたものです。おりしも2015年3月には北陸新幹線が開業し、富山をはじめ北陸の景観に大きな注目が集まっている時期でもあります。富山には立山連峰の自然景観や世界遺産となっている五箇山合掌集落、砺波平野の散村景観といった日本を代表する景観がありますが、その景観の背後にはそれを支えている様々な日常の営みや努力の積み重ねがあること、そして有名観光地に劣らない魅力的な場所が、伝統的な生活文化や生業とともに富山のあちこちに隠れていることに気付いていただくきっかけになればと考えています。

フォーラムにお呼びした講師は、みなさま文化的景観の保全・創造の取り組みに第一線で関わられている方ばかりです。お忙しい中ご無理をお願いいたしました。たいへん貴重なご意見を伺える場になったものと考えております。この講演記録集がこれからの富山の景観づくり、地域づくりの一助になれば幸いです。

なお、本フォーラムの開催にあたりましては、公益財団法人富山県ひとづくり財団からの支援をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。